

国土交通省の自動車アセスメントを通じた 車両安全対策について

令和5年3月17日

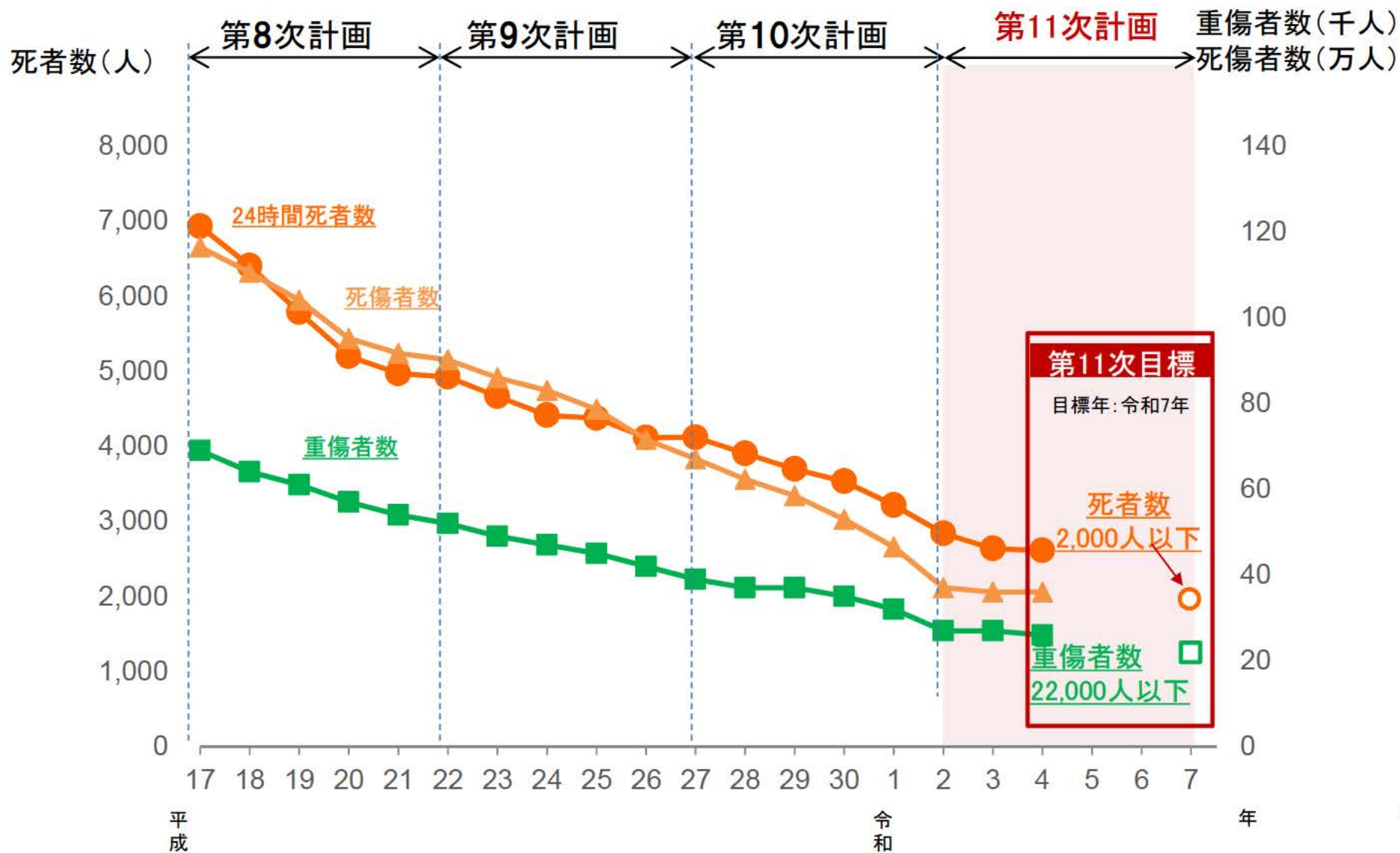
自動車局 技術・環境政策課

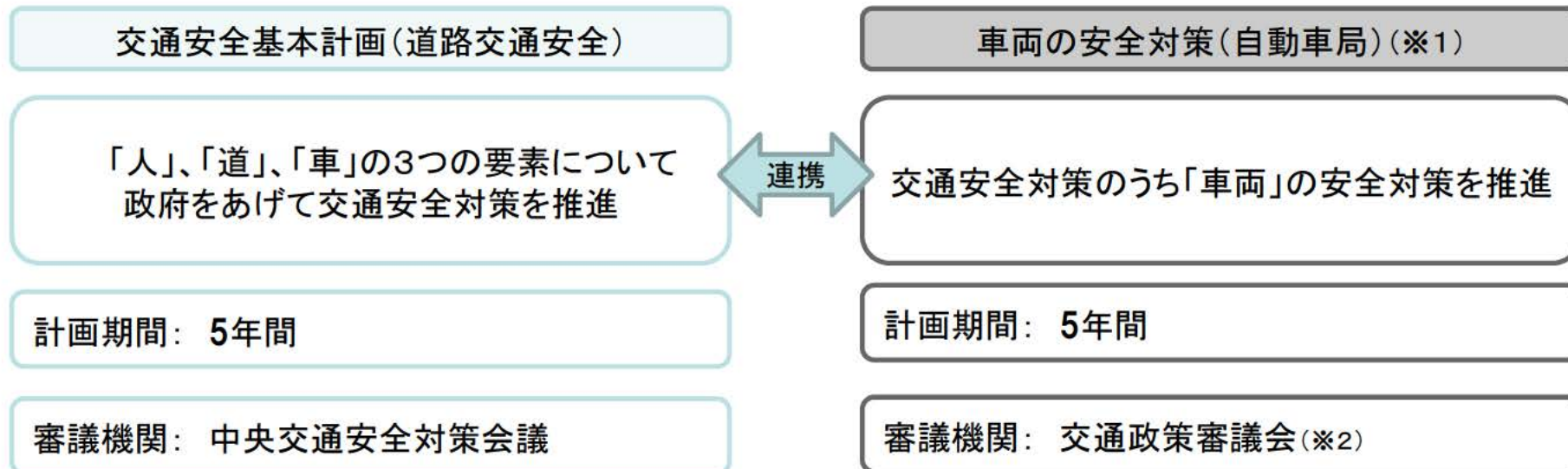
木内 信仁

- 交通事故の概況と政府の取り組み
- 自動車アセスメントの概要・効果
- 今後の自動車アセスメントの見通し
- 諸外国の動向
- まとめ

- 交通事故の概況と政府の取り組み
- 自動車アセスメントの概要・効果
- 今後の自動車アセスメントの見通し
- 諸外国の動向
- まとめ

交通事故死者数等の推移と交通安全基本計画の目標値





※2 陸上交通分科会自動車部会技術安全ワーキング・グループ

- ・ 交通ルールの策定、徹底
- ・ 交通安全教育
- ・ 運転免許制度 等

- ・ 生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備
- ・ 幹線道路における交通安全対策の推進
- ・ 自転車利用環境の総合的整備 等



- ・ 車両の安全基準の策定
- ・ 安全な車の普及促進
(自動車アセスメント)
- ・ 最新の安全技術の導入促進 等

※1 自動車局では、このほか、トラック、バス、タクシー等の事業用自動車の安全対策も担当。現在、「事業用自動車総合安全プラン2025」(令和3年とりまとめ)に基づき、令和7年までに死者数を225人以下にする等の目標を掲げて各種施策を実施中

- 交通事故の概況と政府の取り組み
- **自動車アセスメントの概要・効果**
- 今後の自動車アセスメントの見通し
- 諸外国の動向
- まとめ

自動車アセスメントの概要

- 市販されている自動車を対象に、衝突時の乗員や歩行者の安全性を評価する「衝突安全性能評価」、被害軽減ブレーキのような事故を未然に防ぐ技術の評価する「予防安全性能評価」等を行い、その結果を公表。安全技術の性能向上と普及の促進に大きな効果。

※自動車アセスメントの一環として、「チャイルドシート」の安全性能比較試験(前面衝突試験、使用性評価試験)も実施。

1. 評価試験の実施

衝突試験、衝突被害軽減ブレーキ(自動ブレーキ)の試験など、様々な安全性能を評価

衝突安全性能評価(7項目)

フルラップ前面衝突 	側面衝突
後面衝頸部保護 	歩行者頭部保護

等

予防安全性能評価(8項目)

衝突被害軽減ブレーキ(R4年度より対自転車を追加)

ペダル踏み間違い急加速抑制 	車線逸脱抑制

等

事故自動通報(1項目)

自動車(乗員乗客状況や位置情報等) → コールセンター

エアバック展開情報等 → 緊急通報センター

緊急通報センター → 消防署、警察、救急医療機関

連携

LEXUS UX (緊急通報機能) | 日産 デイズ (緊急通報機能)

2. 結果の公表

結果を車種ごとに点数化して公表。
(結果は、自動車メーカーの広報活動等で活用されている)



SUBARU
レガシィ
アウトバック

※SUBARUホームページより



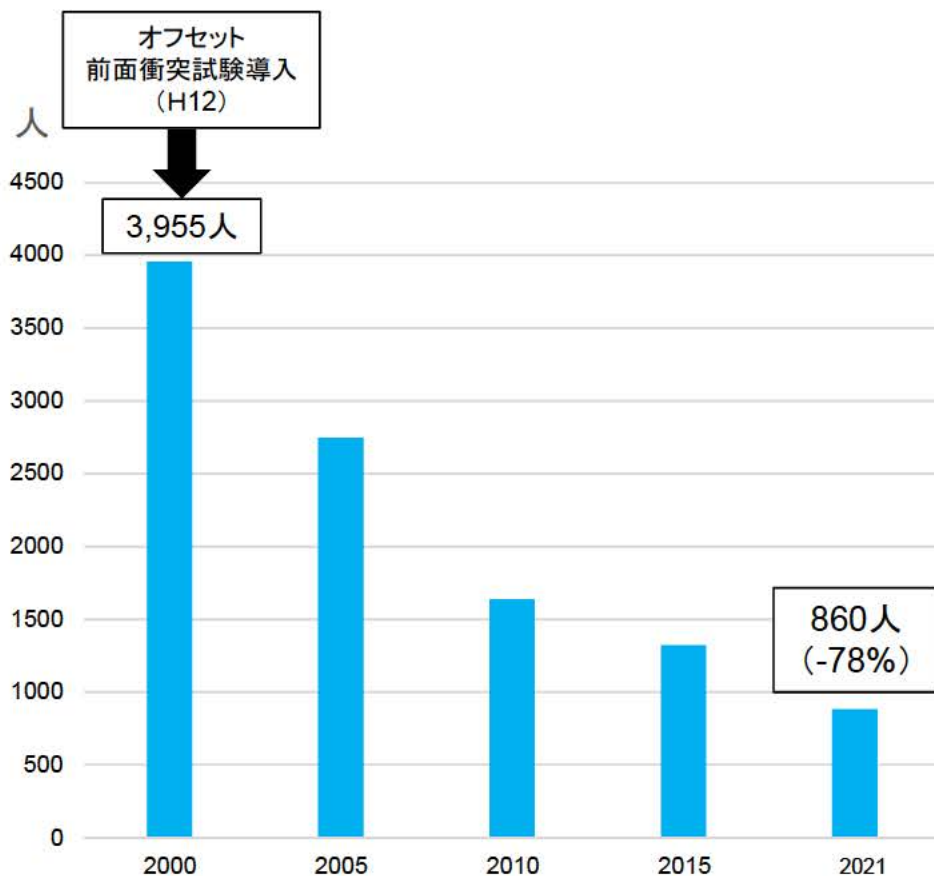
『自動車安全性能2021』ファイブスター大賞受賞

自動車アセスメントの効果例

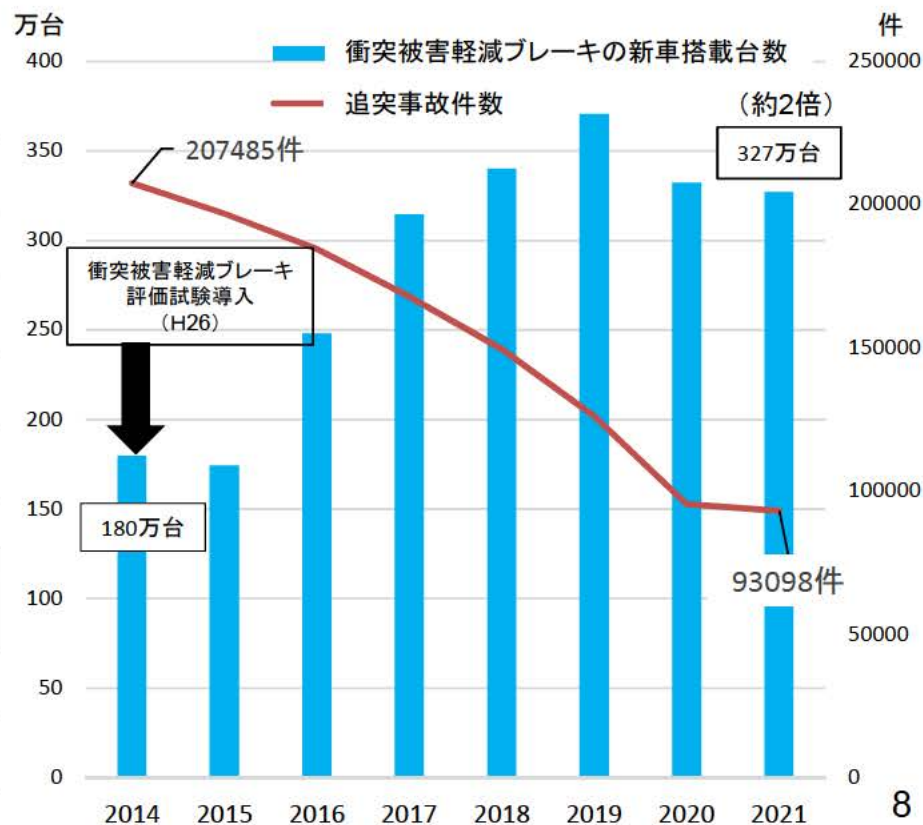
前面衝突試験を導入した2000年以降、2021年までの間に、衝突事故において、自動車の車内で亡くなる方が約8割減少

衝突被害軽減ブレーキ試験を導入した2014年以降、2021年までの間に、追突事故の発生件数が約5割減少

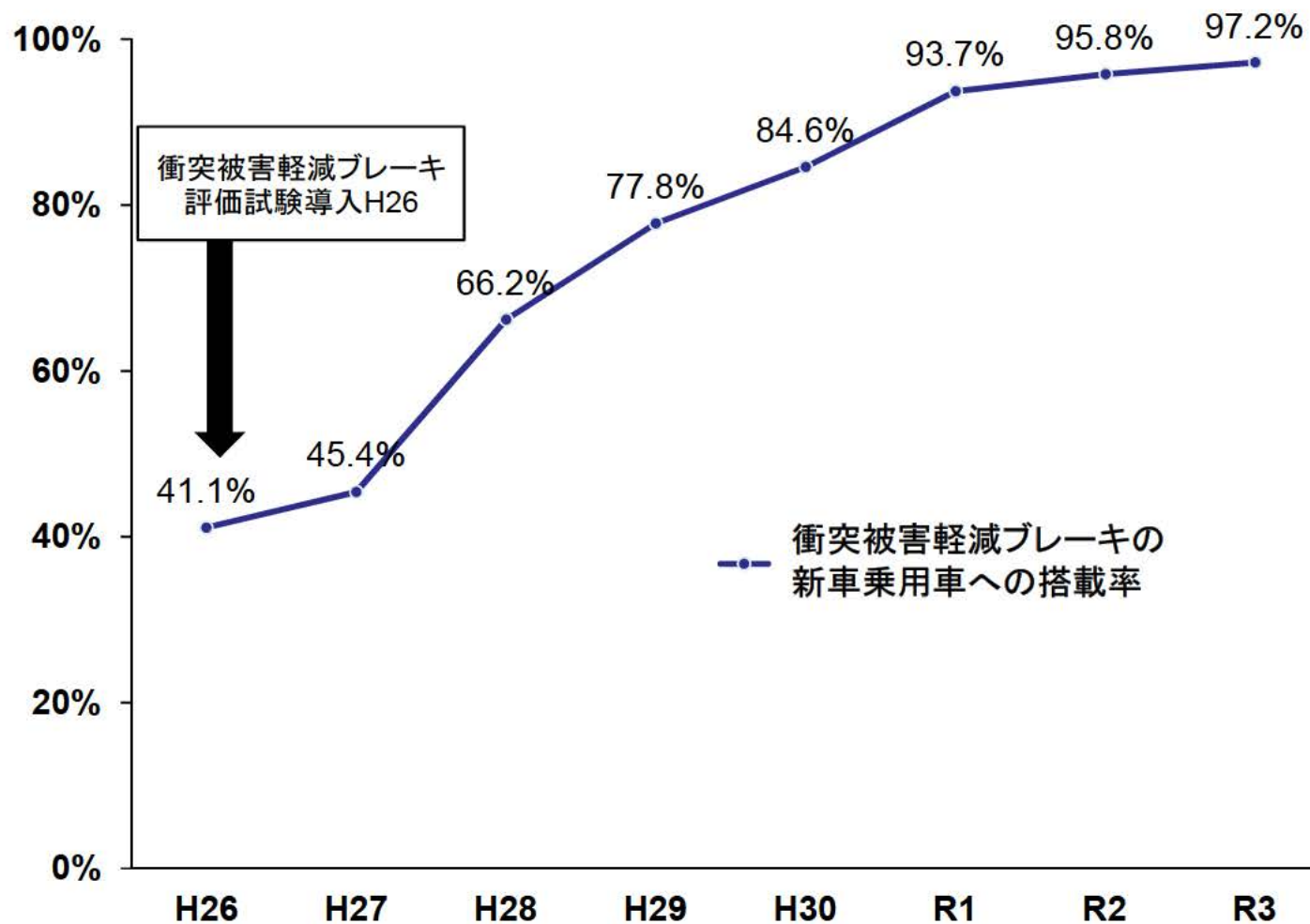
衝突事故における 自動車の車内での死亡者数の推移



衝突被害軽減ブレーキの新車搭載台数と 追突事故件数の推移



衝突被害軽減ブレーキの新車乗用車への搭載率の推移



※国土交通省調べ

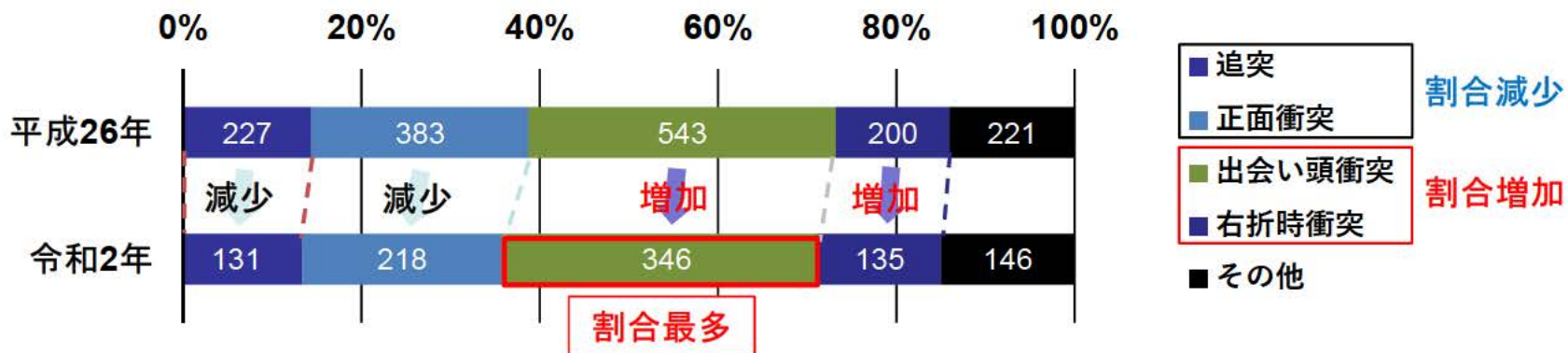
- 交通事故の概況と政府の取り組み
- 自動車アセスメントの概要・効果
- 今後の自動車アセスメントの見通し
- 諸外国の動向
- まとめ

日本国内の事故実態

- 更なる交通事故の削減に向けて、日本国内の事故実態を踏まえ、新たな評価試験項目の追加等を検討。
- これにより、更なる安全技術の性能向上と普及の促進を図る。

車両相互死亡事故の類型割合・件数推移

(グラフ内の数字は件数、件数の特に多い類型を抽出)



カメラ等の自律系の検知技術を活用した安全技術では防止が難しいと考えられる事故(出会い頭事故、右折時衝突等)への対策が必要。

今後の自動車アセスメントの見通し

- 出会い頭・右直時の事故を削減する為、自動車アセスメントの今後の実施計画を定めるロードマップにおいて、V2Xを今後の新たな導入項目候補と位置づけている。

自動車アセスメント ロードマップ抜粋

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
予防・衝突等総合安全性能		2020年度～						
予 防 安 全 性 能 評 価	被害軽減ブレーキ	対車両	義務化に伴う評価方法検討					
		対歩行者(昼間)						
		対歩行者(夜間・街灯あり)						
		対歩行者(夜間・街灯なし)						
		対自転車	予備試験					
		交差点	試験・評価方法検討/予備試験		予備試験			
	高機能走行用前照灯	2019年度～						
	ペダル踏み間違い時加速抑制装置	試験・評価方法再検討	予備試験					
	車両後方視界情報提供装置				評価廃止			
	車線逸脱警報装置・車線逸脱抑制装置	逸脱警報装置2014年度～ 逸脱抑制装置2018年度～						
その他運転支援技術(被害軽減ブレーキ[後退時歩行者]、被害軽減ブレーキ[対向車]、V2X等)	追加新規項目検討			調査・研究(追加項目)	試験・評価方法検討(追加項目)	予備試験(追加項目)		
予防安全性能評価全体の総合的な安全性能	普及期の評価方法から競争期の評価方法への変更検討							
	新規項目導入の際の評価(考え方)の検討							

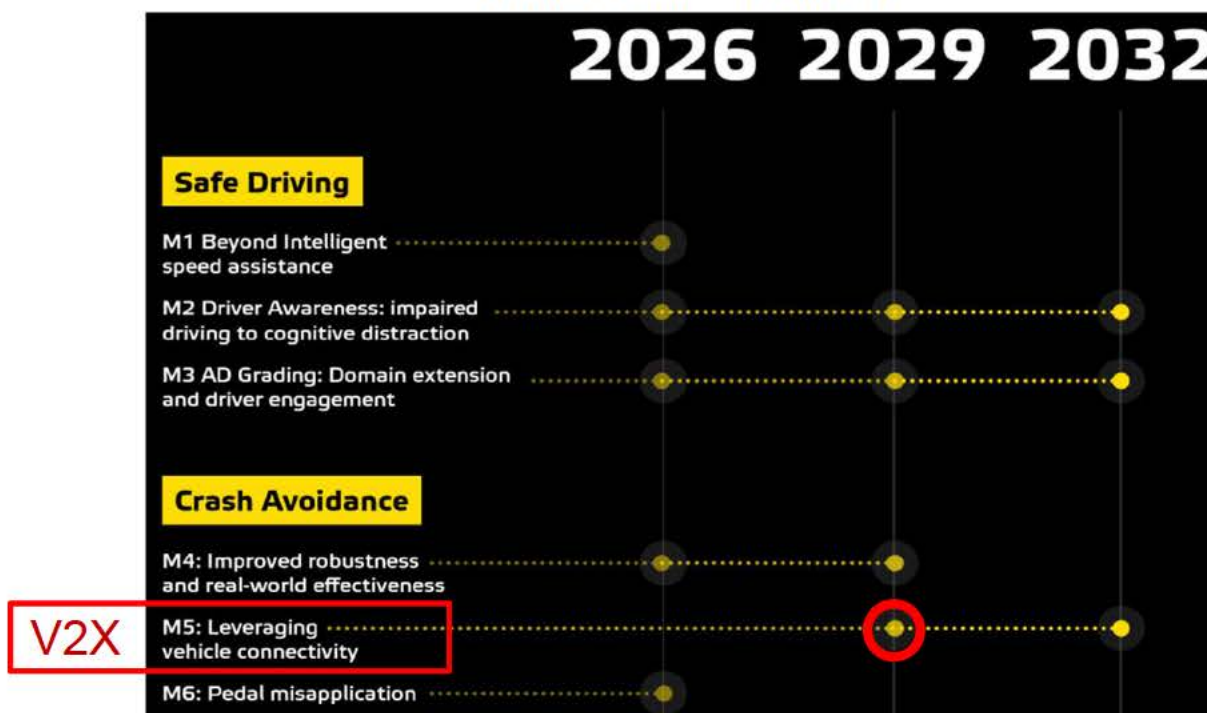
※国土交通省ホームページ 自動車総合安全情報 より
<https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzaen/02assessment/index.html>

- 交通事故の概況と政府の取り組み
- 自動車アセスメントの概要・効果
- 今後の自動車アセスメントの見通し
- 諸外国の動向**
- まとめ

- 自動車アセスメント(NCAP)は世界各国で実施されており、V2Xについても検討が進んでいる。

➤ EuroNCAP(欧州)においては2029年よりV2Xの評価の開始が予定されている。

【Euro NCAP 導入計画】



※EURO NCAP ホームページ EURO NCAP VISION2030 より
<https://www.euroncap.com/en/press-media/press-releases/euro-ncap-vision-2030-a-safer-future-for-mobility/>

➤ C-NCAP(中国)においても2025年よりV2Xの評価の開始が予定されている。

- 交通事故の概況と政府の取り組み
- 自動車アセスメントの概要・効果
- 今後の自動車アセスメントの見通し
- 諸外国の動向
- **まとめ**

- 国土交通省では、開発から普及までの一貫した車両安全対策を推進することにより、交通事故の削減を目指している。
- その中で、自動車の安全性の見える化(点数化・公表)を行う自動車アセスメントを実施しており、ユーザーによる安全な車選びのための環境整備と、メーカーによる技術開発の促進を図っている。
- 今後も、事故実態を踏まえながら自動車アセスメントの充実を図るため、V2Xを含めて検討を進め、より安全な自動車の普及に努める。